

10月になりました。

今日は10月1日 昭和の頃は「衣替え」という風習？があつて「制服」着用を決められていた中高生や特に女性の働き手などが・・秋冬バージョンに変更する日でした。

一律の制服やその日時による衣替えは体感温度や個々の活動に不向きだったりする場合もあったのですが、勝手な変更は許されず正直不便なことも多々ありました。ですが、一般的に季節感や風流を大切にしている日本らしい習慣として、その形を「良きこと」としていました。

私の中高生時代は、暑い寒い問題より「個性を強調したい者」「目立ちたがり屋」多々理由があり、一部の中高生は決められた着衣を着る事を拒みました。スカート丈やズボンの幅の調節方法や折り目のつけ方などに日々工夫を凝らしました。それが自分のアイデンティティの現れだと信じて！しかし、平成の時代になると「そのこだわり」は「一部の者ではなく多数の者」となりました。ついに、制服着衣に興味を持たない一部の生徒の方が、同世代から逸脱した「変わり者」となりました。その時代すでに母だった私は、娘の異様に長く太いゴムの伸びきった靴下を「自分で洗え」とバケツに投げつけていましたが、その靴下のおかげで、彼女はそれなりに楽しい高校生活を送っていたと思われま。す。「人と同じことをすること」を強られる事もあれば「人とは違う事。個性を出すよう求められる事」もあります。個性豊かで凡庸な、自分らしい個になるのは難しい！と I Think

コロナ禍の今。マスクをするかしないか？

旅行に行っているのか？悪いのか？それぞれの考え方と行動には、それぞれの趣旨に基づく論理があります。

望む世界は同じでも状況分析が違ふと行動判断も変わってきます。

ロジックを駆使すると「マスクをする。しない」が国を二分化する事態にまで発展してしまいます。



日本でも「同調圧力を拒否し、個々の判断で行動する人」もいます。また逆に「権威などが決定する統一ルールを望む人」もいます。ですが、現在、日本人特有の摩擦を避け、強い個性を薄め、協調や共感の姿勢を表しつつ、最後には秘儀「空気を読む」という文字通り空気の様な力まで駆使する事でそれぞれのスタンスを尊重し、各自の判断で、それなりに上手に行動をして生活しています。実際それが、コロナウイルスの国内爆発を防いでいる様に私には思えます。

少し前まで、グローバルな世界社会では「自分の意見をはっきり表さず、摩擦をさげ物事をウヤムヤ？な状態にしたい日本人は埋没し、結果を出せない者と判断される」と言われてきました。が、「中庸」というアリストテレスや儒教訓示でもある倫理基準。難解な基準を軽々と乗り越える日本人。「わび・さび」や自然を取り込み生活する感性豊かな日本人特有の能力でなせる業かと思えます。

10月1日 吉祥寺丸井の前では「夏用のマスク」がバーゲンになっていました。「来年も使うよね」と夏用を選ぶ親子。「レースはもうやめるわ」と言う女性。なるほど秋用にマスクも衣替え。不便さの中にも個性や季節感まで入れ込み、つつがない日常を過ごそうと思う人々。なんかとてもホッとしました。

そんな思いのまま、見上げた空に満月が神々しく輝いていました。久しぶりに少し遅くまで人にあっていた自分に「大丈夫」と言えた満月で始まった10月です。

